

未来へつなげる環境活動支援事業評価委員会 議事録

日時：令和8年5月26日（火） 15：00～15：30

場所：オンライン及び福岡市役所本庁舎 15 階 1501 会議室

出席者：評価委員 5名

申請団体 1 団体

事務局 5名

<申請事業の評価>

団体活動支援コースBの概要説明および申請団体への質疑応答

（概要説明5分、質疑応答7分）

1 鹿垣を守る会

発言者	発言内容
委員	鹿垣の修復によって、どれほど環境への負担低減や環境保全の効果があるのか。
団体	令和8年度の活動の効果は、1ヘクタールを見込んでいる。
委員	山結びやユンボとは何か。
団体	山結びイベントは山の整備活動をするネットワークで、内容は森林環境整備についての勉強会や実践活動を実施している。ユンボとはショベルカーのことである。
委員	熱心な人がいなくなった後に継続性があるのか。
団体	持続可能な活動とすべく若年層の参加を促し、活動の継承を行っている。
委員	高齢者のみでは持続可能ではないため、本学の学生も貢献しているということで、引き続き若者が関わることは有意義だと思う。 他の補助金の交付を受けているようだが、本補助金との使い分けを教えてください。
団体	九電みらい財団 127,500 円はイベント講師への諸礼金・交通費・山椒苗代・搬送代として活用している。 F コープ 99,000 円は参加者の渡船切符代 16 人/12 回分、2t トラック航送料として活用している。
委員	能古島で「鹿垣」再生という珍しい取組みであるが、参加者も環境活動と同時に船で能古島に渡ってリクレーションも兼ねいい活動だと思う。 参加者は市内のみならず市外から参加者も増え、広がりが感じられる。 今後「鹿垣」が完成した後のメンテナンス活動も継続的に参加者が続くことを期待している。

委員	学生や市外から参加者があるのは、宣伝・広告の方法がよいのだろう。
委員	ホームページがとてもよい。毎月開催の会員とボランティアによる鹿垣の修復と遊歩道の開通、並びに周辺区域の里山林の整備・保全活動に持続性がある。そして、その活動と地域の歴史などにつなげた年3回の活動を行うことで、福岡市（県外の方も含めて）の市民への活動参加を促すとともに、保全活動だけでなく、歴史への理解や伝承の重要性を伝えている活動となっている。若い世代もボランティアとして参画しており、口コミとともに若手世代を通じて SNS で情報発信することで、また若手のネットワークも広がっていくことが期待できる。
委員	2 k m程度ある鹿垣はどの程度で修復するのか。
団体	2030 年の完成を予定している。
委員	地域の歴史・文化の継承と、環境保全を合わせた活動で評価できる。今年の目標も数値化されており、活動成果を期待します。
委員	地域資源を活用した実践的な環境保全活動として評価できる。すでに他の補助金の交付を受けているということだが、今後は将来的な自主財源の拡充や成果指標の設定などにより、継続性と事業効果の一層の向上を期待したい。

未来へつなげる環境活動支援事業評価委員会 議事録

日時：令和8年5月28日（木） 14：00～16：20

場所：福岡市役所 15 階 1503 会議室

出席者：評価委員 3名

申請団体6団体

事務局5名

<申請事業の評価>

団体活動支援コースAのプレゼンテーションおよび申請団体への質疑応答

（概要説明7分、質疑応答7分）

1 大濠舞鶴公園パトロール隊

発言者	発言内容
委員	活動を継続していくうえでの予算計画については、どのように考えているか。
団体	県や企業による助成制度が存在することは把握しており、今後それらの活用について検討していく予定。 また、本活動においては、障がいのある方々が組織の中で主体的に活躍し、その取り組みがさらに広がっていくことを目標としている。 そのためにも、今後は支援して下さる方々とのつながりを一層広げていきたいと考えている。
委員	団体を継続的に安定させるための体制については、何か考えているか。
団体	団体そのものの存続に特別な重きを置いているわけではない。 たとえ団体が存続しなくなった場合であっても、福岡市から生まれた「LOVE PARK」の活動やその理念が広がっていくことの方が重要であると考えている。
委員	同様の活動をされている他団体や個人との連携については、今後どのように考えているか。
団体	実際には、早朝や夜間に個人で活動されている方も多く、本来であればそうした方々と連携し、意見交換などができれば望ましいと感じている。しかし、こうした点はボランティア活動の難しさでもあると認識している。中には静かに活動を続けたいと考える方もいらっしゃる一方で、互いに協力し合いながら課題解決を図りたいという思いもあり、両者のバランスをどのように取っていくかが今後の課題であると考えている。

2 一般社団法人くらげれんごう

発言者	発言内容
委員	他の助成金も活用されているようだが、その点との関係はどのようなになっているのか。 今回の申請は福岡市のものであり、内容および金額が示されているが、別の助成金でも相当額の申請を行っているように見受けられるが、区別はされているのか。違う活動をされているということなのか。
団体	日本財団からの支援は6年目であり、ごみ拾いによるポイント付与アプリの開発・運営に充てられている。 一方、今回の福岡市への申請は、動画制作および冊子（1万冊規模）の作成が中心であり、これらの制作費に使用する予定である。 これらの助成金は事業ごとに区分している。 ただし、海洋ごみに関する普及啓発活動は、作成した冊子や動画を小学校や他の場面で活用することはある。
委員	作成した動画や冊子について、子どもたちの反応を把握するためのアンケート等は実施しているのか。
団体	アンケートは実施しており、既に統計データも取得している。 また、今回の事業においても小学校2校でアンケートを実施する予定である。
委員	学校を中心に教材を活用した啓発活動が行われているが、学校以外の地域等で活動を広げていく予定などはあるのか。
団体	ワークショップについては地域からの依頼に基づき実施しているが、一方で、町内会など予算の確保が難しい団体の場合、講師の派遣が困難となるケースもある。 そのため、講師派遣に依存しない形として、各地域で自主的に開催できるキットを作成し、今後はそれらを活用して活動の拡大を図っていく方針である。

3 福岡看護大学ボランティア部

発言者	発言内容
委員	環境活動については、学生の間で動きがまだ十分でないように感じられるが、学生に対してはどのような取り組みを行っているのか。 活動が全体に広がれば大きな影響力が期待できるため、例えば福岡市のプラスチック分別の周知をはじめ、イベントの開催や学生主体の活動を積極的に推進していくことが望ましいと思われる。
団体	現在は50名が参加しており、学生の意識も少しずつ高まりつつある。

	ご助言を参考にチラシを作成したり、学内での共有を進めたりすることで、さらに活動の広がりを図っていきたいと考えている。
委員	学生という特性上、卒業に伴いメンバーが入れ替わるが、活動を継続していく工夫はしているか。 卒業生の方々が地域と関わりながらボランティア活動を継続しているなどの成果はあるか。
団体	現状として、3年生は実習、4年生は就職活動や卒業研究のため、活動への参加が難しくなる傾向がある。そのため、人数増加に伴いグループ分けを行い、グループ分けとリーダー設置により引継ぎを円滑化しているところ。 卒業後は地域外へ就職するケースが多く、同一活動の継続は困難。
委員	同じ地域で活動を続けることに限らず、卒業後もボランティア意識を持ち続けるなど、意識の変化が維持されていくことに意義がある。
委員	大学内での活動報告や評価の仕組みはどうなっているのか。
団体	大学に対してプレゼンテーションで報告は行っているものの、認知度には差があり、十分に共有されていない現状がある。

4 REPAIR UNION+

発言者	発言内容
委員	開催日程などの情報はどこで確認できるのか。
団体	インスタグラムで情報発信を行っている。 なお、これまで3年間の実績から、チラシによる周知が最も効果的であると認識している。遠方からの持ち込みは少なく、近隣住民の利用が中心であるため、地域密着型の運営を重視している観点からも、SNSよりチラシの方が適していると考えている。
委員	映画リペアカフェの参加料を引き下げることが可能か。
団体	現状では難しい。衣類の修繕費用も含まれており、参加しているメンバーはそれぞれ店舗を持っているため、半ばボランティアとして実施している状況である。
委員	2024年に参加した環境フェスティバルには今年は参加しないのか。
団体	当該イベントは活動の特性に適していなかった。持ち込みの手間が大きい

	いことや、天神という立地上、目的が異なる来場者が多く、利用につながりにくかったため、参加は見送る方向である。
委員	チラシはどの程度作成しているのか。
団体	これまでは月1回あたり約5,000枚作成していたが、今後は1万枚程度まで増やしたいと考えている。
委員	参加者がその後具体的な行動につながっているか把握しているか。
団体	調現時点で調査は実施していない。ただし、実際に持ち込みがあることから、お直しという行動が一定程度定着していると認識している。今後はこうした効果を数値化することも検討していきたい。

5 宗像CSR推進実行委員会

発言者	発言内容
委員	韓国との交流を踏まえた活動の中で、福岡市民への広がりはどうか。新規参加者の増加など、広がりは見えているか。
団体	昨年頃から他団体との交流を進めながら活動しており、徐々に広がりが見えてきていると感じている。
委員	他団体から助成金を受けているとのことだが、今年も福岡市以外から継続的に受けられる見込みはあるか。
団体	助成金の活用は前提としているが、趣旨が合致しない場合もあるため、内容を精査しながら検討している。 今年は韓国系企業とのつながりもあるため、交流やプレゼンを通じて協賛の獲得を進めていきたい考え。
委員	県や自治体との連携はどうか。
団体	福岡県環境課とは情報共有を行っており、連携は図れている状況。 過去には共同で取り組みを実施したこともあるが、県全体を対象とする対象エリアが広範囲に及ぶため、常に密接な連携を取ることは難しい面もあります。 そのため、今後も互いの事業や取り組みのタイミングが合う際には、連携しながら進めていきたいと考えている。
委員	清掃、学習、再資源化、教育という一連の流れが構築されている。 資源の再活用として制作された絵本について、韓国の保育施設へ寄贈されているが、寄贈先を韓国にした理由は何か。

団体	韓国へ寄贈している理由については、日韓の学生同士の交流があることから、そのつながりをさらに広げていきたいという考えによるもの。また、今後は韓国の企業にも本取組の趣旨にご賛同いただき、ご協力いただけるよう働きかけていきたいと考えている。
----	---

6 ぶらぶらあぶらクラブ

発言者	発言内容
委員	活動の内容は広範囲にわたり、一度に全てを理解するのは難しい部分もある。参加者に対して段階的にどのような形で活動の趣旨や環境への理解を深めてもらおうとしているのか。 また、活動を継続してもらうためには参加者自身の理解が必要になると思うが、その点についてどのように取り組んでいるのか。
団体	まずは油山での活動を基本としており、継続的に油山へ足を運んでいただきながら活動に参加してもらっている。活動を重ねた後には、水源涵養林での活動や登山、天体観測なども実施し、その成果や学びについて子どもたち自身に発表してもらう機会を設けている。こうした体験を積み重ねることで、子どもたちが徐々に地球環境についての気づきを深めていくことを目指している。
委員	活動は8年間継続されているのか。
団体	活動は今年で8年目となる。始めは毎月1回の自然観察を中心とした活動からスタートしたが、その後さまざまなつながりが生まれ、活動の範囲も徐々に広がってきた。
委員	活動に関わる方々も試行錯誤を重ねながら発展させてきた取組であり、参加者や周囲の方々が活動内容を十分に理解するまでには一定の時間が必要だと思われる。
委員	クラブの会員数50名とのことだが、どのような方々で構成されているのか。
団体	会員数50名には大人も含まれており、家族単位での参加が多い。当初は知人や友人を中心に活動を始めたが、現在は油山での活動を通じて知り合った方々が中心となっている。生き物や自然に関心のある方々が集まり、活動の輪が広がってきた。
委員	今回の補助金はクラブでの活動を中心としたものか。また、今後さらに活動を広げていく目標はあるのか。
団体	今後は表現方法を工夫しながら参加者の拡大を図っていききたいと考えている。一方で、今年度からガイド講師への謝礼や施設利用料が上昇し、

	運営面で厳しさも増している。これまでは参加者に 100 円程度の保険料のみを負担いただいていたが、500 円程度に引き上げたとしても、多くの参加者がいなければ運営費を賄うことが難しい状況である。そのため、まずは多くの方に参加していただくことを目標として、今回の補助金を申請した。
委員	活動は子どもが中心なのか。また、環境省の「こどもエコクラブ」には加入しているのか。
団体	子どもを中心とした活動を行っており、「こどもエコクラブ」にも参加している。これまでに環境大臣賞を受賞した実績があり、昨年はさまざまな場所で活動発表を行うなど、非常に良い経験をさせてもらっている。
委員	今後はクラブ会員数の増加を目指すのか、それとも活動内容をさらに発展させていくのか。将来的な方向性について伺いたい。
団体	活動内容については一定の充実が図られていると考えているため、今後はより多くの方に参加していただけるよう、会員数の増加を目指していきたい。